



せい しん つう しん 聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 阿部益太郎

第12号 2020年3月6日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号
URL <http://www.spr-sacred-heart.ed.jp>

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)
FAX 011-612-0980

今年は2月26日から四旬節に入り、4月12日に復活祭を迎えます。イエス・キリストの受難と死を思い、ともに復活の喜びにあずかるべく、自分をふりかえり心の準備をする期間です。人々の救いのために自らをささげたキリストに導かれて、私たちも互いに助け合い、キリストのメッセージを伝えていく存在となれますように。新型コロナウイルスの流行でさまざまな影響が出ていますが、予防に努めつつ、一日一日を大切に過ごしていきましょう。新年度、元気な皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

年度始めの予定

新型コロナウイルス感染症防止のため、3月1日(日)～13日(金)を休校期間とし、予定していました行事を中止または延期いたします。

臨時休校期間中、不要不急の外出を避け、感染症予防にご協力ください。

なお、生徒及びそのご家族が罹患(疑いを含む)した場合は、本校への連絡をお願いいたします。

(011-611-9231)

年度始め 4月の予定

	行 事	お弁当
	春季休業(～4/7)	
6(月)	寄宿 新高3(・新高2)帰舎日	
7(火)	高入生対象オリエンテーション(10:00～) 寄宿舎入舎式(14:00～) 寄宿生 帰舎日	
8(水)	中高合同入学式(10:00～) 始業(14:00～)※	

学校送迎バスの運行とお昼のお弁当販売は9日(木)からの予定です。

※4月8日(水)始業日の時程

13:12 登校バス(JRバス)
13:40 旧クラスでSHR
13:50～ 大掃除
14:50～ 私物移動後、玄関ロッカーの靴移動
中2から順番に教科書・副教材購入
移動・教材購入後、各クラスでHR
各クラスで連絡等終了次第下校
(高3生で16:30下校目処)

元々いたクラスに入ってください。

【教材販売(被服室)】

高1 11:25～ 中2 15:00～
中1 11:45～ 中3 15:15～
高2 15:30～
高3 15:45～



※4月の行事予定については変更の可能性があります、流動的です。
ご了承ください。変更の場合は一斉連絡メールやホームページでお知らせします。

梅干し弁当募金



1月29日(水)に行われた梅干し弁当募金では、皆さんのご協力のおかげで総額 **43,228 円** が集まりました。難民支援協会にお送りし、日本で暮らす難民の方々への支援に役立てていただきます。
ご協力ありがとうございました。

Congratulations!!

◎ JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2019

佳作 高1-S 三田村 理沙さん

◎ 第7回読書感想画全道コンクール

奨励賞 高2-S 石田 まなつさん

◎ 第17回 日本書学研究会一先会全国学生書道展

特別賞 中2-S 寒河江 三宣さん

推薦賞 中2-S 杉本 磨子さん

推薦賞 中2-S 古川 花音さん

奨励賞 高3-S 池上 真歩さん

◎ ポプラ社 2019 全国学校図書館 POP コンテスト

入賞 中3-G 大橋 菜梨乃さん

◎ MUFG ジュニアテニストーナメント 2020

北海道大会シングルス U-16 の部

準優勝 中2-S 小川 桃京さん

人間関係ミーティング ～バラエティ番組の利用と満足～

2月5日(水)の人間関係ミーティングは、聖心女子大学の小城英子先生から「バラエティ番組の利用と満足～ゴールデンに昇格して成功する番組、失敗する番組～」の話をうかがいました。深夜で人気だったバラエティ番組が、ゴールデンタイム(午後7～10時)に昇格した途端につまらなくなることがあります。質問紙調査のデータから、深夜だからこそその魅力、ゴールデンタイムに放送される番組に求められるものを統計的に分析し、成功と失敗の分かれ道について考えました。

世俗的なテーマでも、アカデミックに研究すれば現代社会の一端が垣間見える、とても興味深いものでした。



高1 ニューヨーク国連研修

2月10日～17日、高1 NY 国連研修に15名の生徒が参加しました。現地では、本校にも来られた Sr. Gwen Hoeffel、聖心会国連 NGO の Sr. Sheila Smith と Sr. Rita Pinto にお世話になりながら、国連日本政府代表部や国連広報局、国連開発計画事務局、ユニセフ事務局を訪問して SDGs や難民問題、女子の教育問題、共生についてなどお話を伺いました。また、第58回国連社会開発委員会関連の市民社会会議やホームレス問題についての会議に参加することもでき、学びを深めました。また、昨年の国連研修生の翻訳した SDGs プリントを配布し、核兵器廃絶の願いをこめたりぼんをりぼんインターナショナル代表にお渡ししました。

姉妹校の NY 聖心 Convent of the Sacred Heart 91st St. では校長先生に「ここはあなた方の第二のふるさと home away from home です」と温かく迎えていただき、授業見学、ホストシスターとのハーレムの保育所でのボランティア活動、ホームステイなど、楽しい交流の時を過ごしました。

最後にエリス島の移民博物館、グラウンド・ゼロ（聖心インターナショナル・スクールでの Sr. Hoeffel の教え子の方も犠牲になりました。）を訪ね、生徒たちは心に深く感じるものがあったようです。この研修の結果はこれからのアクションプランに実っていくことでしょう。



今月の聖句

…主はかたわらに立って言われた。『見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこに行っても、わたしはあなたを守り……決して見捨てない。』ヤコブは目覚めて言った。『まことに主がこの場所におられるのに、わたしは知らなかった。』 創世記 28 章 13、15、16 節

難民の歴史は旧約の時代にもありました。故郷から逃げて荒野の旅を続けるヤコブに神が現れ、彼は自分が一人ではないこと、神に寄り添われる存在だと気づきます。

「支援とは（持てる者として上から援助を与えるのではなく）寄り添うことです。」

2月の国連研修で訪れた国連開発計画事務局の岸守上級顧問から、難民の尊厳を大切にされた緒方貞子さんのこの言葉を教えて頂き、感銘を受けた生徒たちのふりかえりを聞いて、あるエピソードを思い出しました。

1975年4月末、南ベトナムの首都サイゴン（現ホーチミン）の陥落直前、今にも北ベトナム軍が攻めてくると人々が脅えていた時、最後の救援機に乗る外国人と、以後難民となるベトナム人が、空港について駆け足でタラップを上り終えた時です。ふと見ると、高齢のベトナム人男性が一人、おぼつかない足取りでゆっくりと飛行機に向かっています。機内の緊張が高まった時、年配の英国人記者がタラップを降り、彼のところに駆けつけました。誰しも彼がジャガイモの袋のように担ぎ上げられ、運ばれると思いました。ところが、その記者は彼の隣に立ち、その歩調に合わせて、ゆっくりと機体までエスコートしました。おかげで、そのおじいさんは、最後まで故郷の地を自分の足で歩いて、人としての尊厳をもって、旅立つことが出来たのです。機内で待つ人の焦りや、いら立ちもやがて感動に変わったことでしょう。

人としての尊厳を大切に、寄り添う姿は、エゴの固い殻に閉じこもり、不便さやいら立ちを抑えきれない私たちを、殻から解き放つ生命の息吹をもたらし、「内なる尊さ」に目覚めさせます。寄り添う神の想いを届けます。一人ひとりに寄り添うことができますようにと祈りながら、卒業した52回生、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の休校で中学の卒業式ができなかった55回生、そしてすべての生徒と教職員のために祈る学年末です。

[チャプレン Sr.田口保子]